

## 女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

（実施期間：平成 25～27 年度）

実施機関：秋田大学（総括責任者：山本 文雄）

## プロジェクトの概要

## (1) 体制及び活動内容

秋田大学の地域連携型の取組を発展させ、人や組織、研究・キャリアなどの架け橋を作る「架橋型ソーシャルキャピタルの形成による女性研究者支援」を実施する。また、秋田県内の大学、自治体、企業等による「女性研究者支援コンソーシアムあきた」を設立し、県内の女性研究者データベース、秋田大学以外の女性研究者も利用可能なメンター制度を構築する。さらに高齢化の進む秋田発の架橋型女性研究者介護支援モデルについて、秋田大学の支援相談窓口を学外へ開放することなどにより、構築する。

## (2) 普及対象となる機関

既存の県内における大学間連携連絡会議において連携する県内の高等教育機関 6 機関に加え、秋田県試験研究機関や秋田大学産学連携推進機構において連携する県内企業へも普及を拡大する。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
B	b	a	b	b	a

総合評価：B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同様又はそれ以上の取組も見られる）

## (2) 評価コメント

女性研究者の採用について、地理的に不利な条件の中、実施機関が高い使命感をもって、秋田県内の 22 機関からなる「女性研究者支援コンソーシアムあきた」を主導し、連携連絡会議により連携を密にし、着実に取組を進めており、成果を上げつつある。しかしながら、実施機関や連携機関の全体が掲げた目標は十分に達成できたとは言えず、成果は限定的であると言わざるを得ない。今後は、学長のリーダーシップの下、より実効性の高いポジティブ・アクションを立案し、確実に実施することにより、実施機関における成果はもとより、連携機関への波及効果を上げることを期待する。

- ・ **目標達成度**：秋田県内の 22 機関の磐石な連携体制の構築や介護支援秋田モデルの構築は、所期の目標どおりに達成した。しかしながら、実施機関における女性研究者の採用比率、在籍比率、離職比率の目標や、連携機関全体における女性研究者の在職比率の目標は、いずれも達成できておらず、総じて所期の目標を下回ったという評価をせざるを得ない。
- ・ **取組**：県内の教育・研究機関等からなる「女性研究者支援コンソーシアムあきた」及びその連絡会議を創設し、県内関係組織の連携と情報共有等を強化した取組は評価できる。さらに、「架橋」をキーワードに、県内の女性研究者データベースを構築し、また、実施機関で実績のある

研究支援員制度、メンター制度、支援相談制度の利用対象者を連携機関の女性研究者へ拡大し、連携機関への制度の普及を図ったことは評価できる。

- **取組の成果：**秋田県内の様々な組織を架橋し、連携して女性研究者支援に取り組む体制を構築した点では、一定の成果を上げており、地域の実情に即した介護支援モデルの構築、連携機関における研究支援員制度の導入等に繋げているものと評価できる。しかしながら、実施機関及び連携機関自らが掲げた女性研究者の増加や離職抑制に係る所期の目標は十分に達成できたとは言えず、取組の成果は限定的なものと言わざるを得ない。今後は、目標が達成できなかった原因分析を詳細に行い、取組の適切な改善を図ることを期待する。
- **実施体制：**実施機関の学長を会長とする「女性研究者支援コンソーシアムあきた」を設立し、連絡会議を開催することにより、実質的な連携を進めたが、実施機関の学長を委員長とする「女性研究者支援プロジェクト管理委員会」及び理事や部局長からなる「男女共同参画推進委員会」が十分に連携して機能したとは言い難い。今後は、両委員会の運営の効率化を図るとともに、学長及び執行部のガバナンス強化を図ることが期待される。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性：**「女性研究者支援コンソーシアムあきた」は、実施期間終了後も存続し、連携連絡会議の開催を継続しており、ほぼ全ての女性研究者支援の取組を継続している。また、保育支援に関する自主経費も実施期間中と同額が確保されており、今後の取組の発展が期待できる。